

こども目線でおもしろさを探そう！

こどもケンチク新聞

第7号

2020年10月
編集発行：こどもケンチク新聞社

この人に聞きたい



伊東建築塾
子ども建築塾
塾長
伊東豊雄
先生

今号では、ずっと記者たち全員の憧れだった、伊東先生へのインタビューが実現しました。たくさん質問をして、先生のケンチク観をうかがいました。

ケンチクってなんだろう？

先生はどんな子でしたか

おとなしい子でした。あまりしゃべらないで、人のやることをジッと見ているような中学生の時には積極性がないと、担任の先生に怒られたことがあります。

建築家になろうと思ったのはいつですか

これが一番いやな質問なんだ。(笑) もともと建築家になろうと思っていたんですけど、大学受験の時、野球をやりたいと文系を受けたけれど、すべてしまい翌年は理系を受験しました。東大は二年生で成績順に志望に入るけど、僕は行けるところが限られていて、残っていた建築学科を選びました。

どうして子ども建築塾を作ったのですか

自分の展覧会をするときに、一日子どものワークショップをしてほしいと言われたんです。それをやったら子どもたちが素晴らしくて、元気で楽しくてね。それで一年間一緒にやってみたいと思って、大人の建築塾をつくる時に子ども建築塾もつくりました。

子どもの建築物はなんですか

現代建築で好きなものはたくさんあって挙げたらキリがないけど、古民家が一番好きです。洗練された京都の町屋のような建物より、梁がしっかりついている田舎にある古い家。自然と一体になって力強い、そういう建物のほうが僕は好きです。

建築家になるために

大切なことは何ですか

自分の好きなことを「どうやったらそれを建築にできるだろうか」と、いつも考えていることだと思います。それと、僕の場合は、自分の育った諏訪湖畔の風景が、今の建築を作るうえでのすごい力になっているんだと、最近思うようになりました。

デザインをする時に何を一番大切にしていますか

最近出た本のタイトルでもあるんだけど、デザインを考えるときは「身体で建築を考える」ようにすることです。僕らはどうしても「こういう建築にしよう」と頭で考えてしまいうけれど、頭だけで考えた建築はすぐわかってしまい、つまらない。体の中にあるもの、例えば自分がすごく好きなこととか、そういうものが自然に出てきてしまうような建築。「あれ？これはどうしてこうなんだろう」ともっと長くいて考えなくなる、奥へ奥へと行きたくなるものがあります。

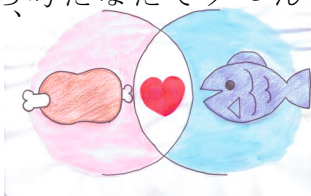
一番大変だったことは？

たくさんあるけれど、国や県・市などから発注される公共建築のことです。例えば図書館を作る時、そこを実際に使う人とはなく、役所の人と話しながら作ることにあります。でも役所の人に都合の良い建築は、必ずしもその建築物を使う人にとって望ましいものになっていないことが多いんです。だから

実際に使う人が楽しい、居心地良い建築を作るために、役所の人を説得しながら進める必要があります。壁のように立ちちはだかるものを、どうやって説得していくかが重要で一番大変になります。

自分にとっての建築を食べ物にたとえらる？

なんだろうなあ(笑) 肉と魚が混ざったようなものかな。昔は、日本の人は魚ばかり食べてきたけれど、今は肉は肉を食べますね。僕も肉は好きなんだけどもね。つまり、僕らが育った時代では、ヨーロッパやアメリカから入ってきた建築を見て「建築ってこういうものなんだな」と考えたから、肉のような建築を考えながら、作ってきたんです。だけど日本の伝統を考えると、そうではない。だから、どうやったら肉の建築を魚の建築に変えることができるだろうかと、だんだん考えるようになりました。肉と魚の両方がうまく組み合わせられたような建築を作りたいですね。



一番挑戦したい夢は？

いま瀬戸内海の大三島によく行っていて、そこでワインを作っているんだ。そこに半分は住みたいと思っています。東京も面白いことがたくさんあるから、行ったりきたりするような生活をした。今コロナで地方移住をした人が増えたけれど、移住してしまうと仕事はどうなるのか、子育てはどうなるのかと、いろいろ大変なんです。だから、両方に住めるような社会になれば、もっと人生楽しめるんじゃないかと思っています。島に楽しめる場所をたくさん作って、そういう社会を実現したいと本当に思っています。

子ども達にメッセージをお願いします

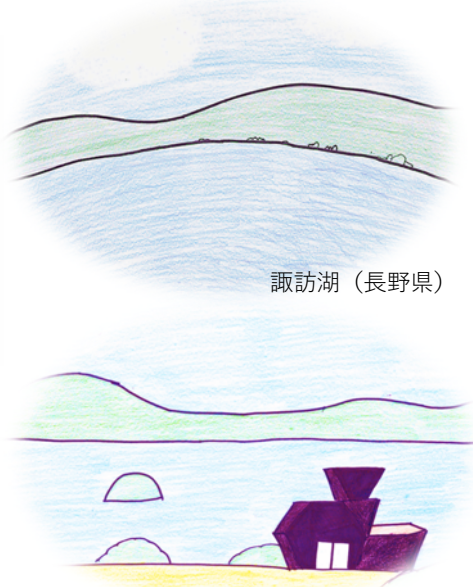
いつも夢を持っていてほしいと思います。今日の発表会での猫とか牛とかいろんな動物も含めて、みんなが自然の中で楽しく生きていくなという気持ちで、皆さんの発想に表れてました。そういう目で見て、建築がこうあるといいなあという気持ちを、いつまでも忘れないでほしいと思います。

ココがワウときた！

伊東先生の最近の本



右：「伊東豊雄自選作品集 身体で建築を考える」(平凡社)
左：「美しい建築に人は集まる」(平凡社)



諏訪湖 (長野県)
大三島 (愛媛県)

★伊東先生があまりしゃべらない子だったとは意外でした。あと、子どものころから建築家を目指していたわけではなかった事にびっくりしました。伊東先生の展覧会の子どものワークショップに私も参加したいと思いました。
◆私は「頭の中で考える建築よりも、体の中にあるもので考えた建築でないんだめだ」という言葉にグツとききました。理由は、私は今まで「体の中にあるもので考える」と、考えたことがなかったからです。
●私が「ぐつときた事」は、伊東先生がおっしゃっていた「思いついたらスケッチをする」ということです。このことで一番最初の発想を大事にした方がいいのかなと思います。
▲伊東先生が目指す、複数の場所に住むことができる社会になるといいなと思います。もしそうなれたら、三分の一は今いる場所、三分の一は恵比寿、三分の一は大三島に住みたいです。